



The moment of mjuk!

—あなたが輝く時間を、mjukと呼びます—



植え替えたグリーンに
微笑みかけるように、
明るい雨が降りはじめた。



花を植えたり、手入れするのは妻の仕事…

この家に住むまでは、それがなんとなく当たり前だった。

マンションのベランダではスペースも限られているし、それほどの力仕事もない。

私が出すまでもなかった。が、この家に住み始めて、事情は変わった。

ウッドデッキには大きめの植物も置ける。

植物が大きくなると、植え替えの鉢も大きくなる。土の量も増える。

「ちょっと手伝ってくれる？」と妻に頼まれ、あれやこれやと手を貸すうちに、
ウッドデッキガーデニングは、気が付くと私の仕事になっていた。

気に入った道具を揃えたり、植物図鑑をめぐってみたいしていると、

いやがおうにも気持ちがあがる。そしてそんなワクワク感を

瞬時にキャッチする娘と一緒に、時間を見つけては庭に出る。

新しい趣味を見つけた…というのとも少し違う。

そう、きっとそもそも好きだったんだ。居心地良いスペースをつくることも、

何かを育てることも、緑や花と向き合うことも。

以前の暮らしは気ぜわしかったのだろうか？

妻のテリトリーに入ってはいけないと勝手に思っていたのだろうか？

この家に出逢い、私はもつと自由に、自分らしく暮らす楽しさに、

気付いた気がする。

「パパー雨だよー」と、娘が慌てて室内へ戻って行った。

見上げると、明るい空から雨つぶが落ちてきた。

「水遣りをしなくてすんだね」と妻がにっこりと微笑む。

新しい時間が生まれ、新しい自分に出逢う日々――

すすすくと育つ木々や花たちを眺めながら、

たとえようもない幸福を感じている。